

労働災害事故事例 報告書

死傷負傷事故・ひやりはっと実態調査

(平成30年4月～平成31年3月)



一般社団法人東北測量設計協会では平成7年度に事故防止委員会を設置し、労働災害の防止を目的として活動を続けて参りました。平成26年度からは、「労働災害アンケート調査」として年度毎に会員の皆様から広くアンケート調査をお願いしております。

今回の調査は、前回調査に引き続き80%以上と比較的高い回収率となりました。これも会員の皆様の労働災害防止意識の高さと、会員相互の意識の共有化に対して前向きにお考えいただいたことによる結果だと感謝申し上げます。幸い、今回の調査でも重大事故（死亡事故）の発生は無く、各会員の皆様の安全管理が徹底されていると思われます。

UAV（ドローン）については、災害や業務での活用が進んでおりますが、その反面、事故も増加傾向にあります。

また、本調査の中で、最近の異常気象による熱中症の報告もありました。全国的に地球温暖化が進む中、年々気温が上昇する傾向にあり、現場での柔軟な対応が必要とされております。十分な休息と水分補給に心がけ、社員の健康管理に留意していただきますようお願いいたします。また、転倒・転落事故割合が増加傾向にあります。これらについても社内で検討し防止対策が望まれることがわかりました。

技術委員会では、これらの事例を会員の皆様で共有することによって事故ゼロを目指していきたいと考えております。今後も、軽微な事例でも大きな事故を未然に防ぐための抑制効果として情報提供して参りますので今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回のアンケート調査にご協力を賜りました会員の皆様にお礼を申し上げますとともに、アンケートの集計に協力いただいた委員の皆様はじめ事務局、他委員会の皆様に併せてお礼を申し上げます。

令和元年9月1日

一般社団法人東北測量設計協会

技術委員会委員長 海藤 剛

1. アンケート回収率

	第10回調査			第9回調査		
	平成30年4月～平成31年3月			平成29年4月～平成30年3月		
	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率
青森県	10	8	80.0%	9	9	100.0%
岩手県	10	10	100.0%	9	9	100.0%
秋田県	9	7	77.8%	9	8	88.9%
宮城県	9	8	88.9%	10	9	90.0%
山形県	14	13	92.9%	14	12	85.7%
福島県	11	10	90.9%	10	10	100.0%
計	63	56	88.9%	61	57	93.4%

今調査も88.9%と前回に引き続き高い回収率となりました。会員の皆様にはこれからもご協力をいただき労働災害防止の啓発をしていきたいと考えております。継続的にアンケート調査をいたしますのでご協力をよろしくお願いいたします。

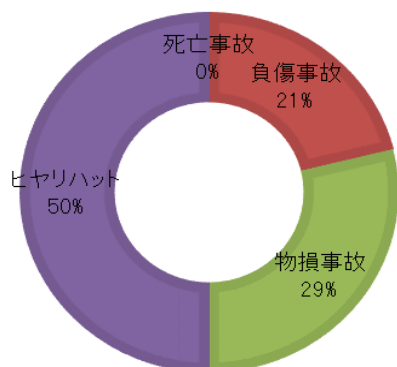
2. 労働災害の発生件数

※前回までとは昭和50年～平成30年3月までの調査、今回とは平成30年4月～平成31年3月までの調査

		青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計
前回まで	死亡事故	0	2	2	1	0	1	6
	負傷事故	48	59	24	58	28	41	258
	物損事故	13	14	7	82	15	6	137
	ヒヤリハット	26	49	35	41	33	252	436
今回	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	1	1	1	5	1	2	11
	物損事故	1	3	1	1	9	0	15
	ヒヤリハット	2	6	4	8	3	3	26

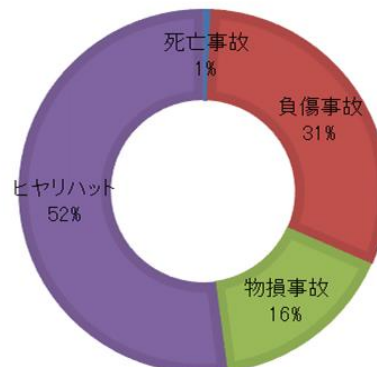
労働災害の発生割合(今回)

■死亡事故 ■負傷事故 ■物損事故 ■ヒヤリハット



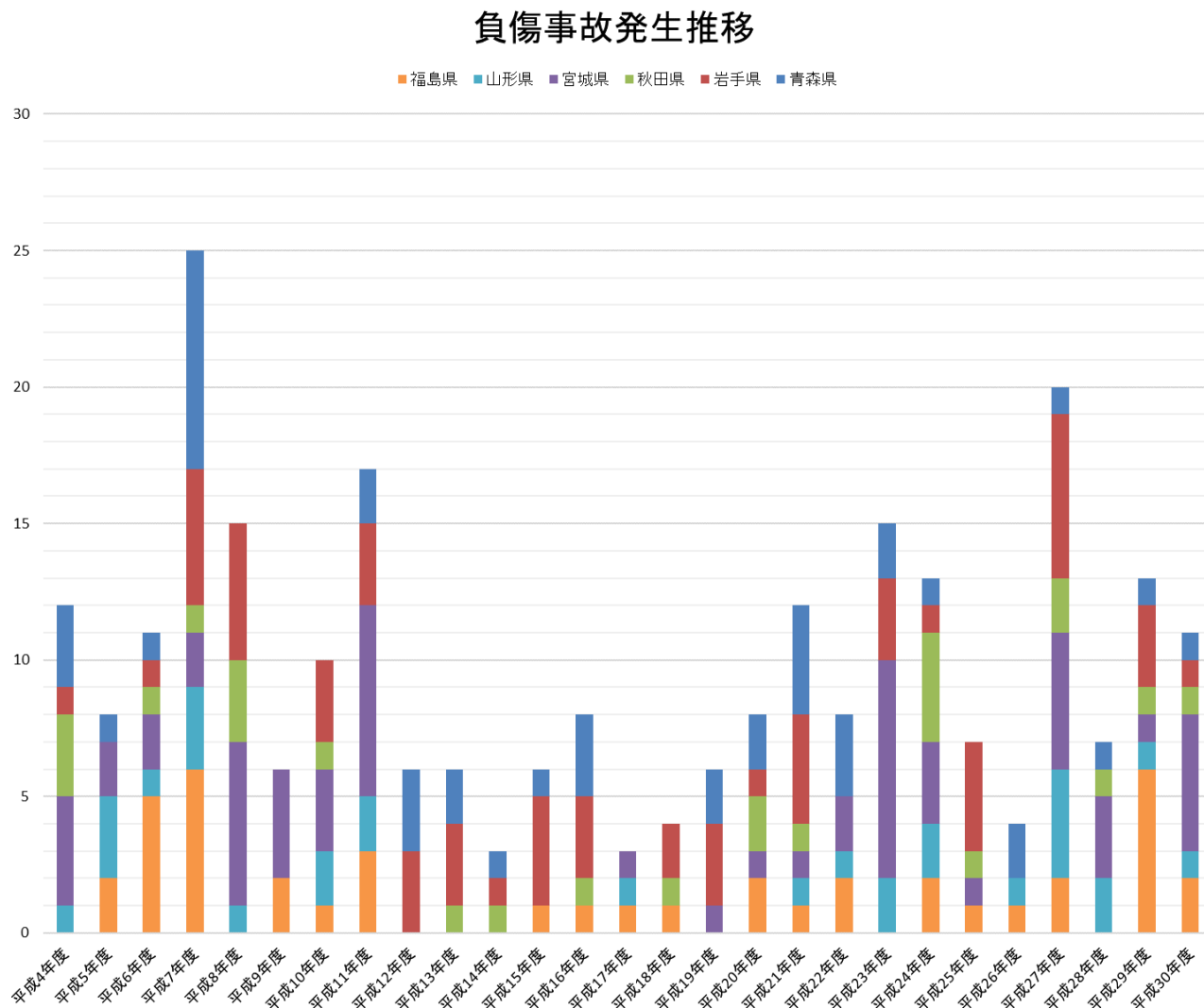
労働災害の発生割合(前回まで)

■死亡事故 ■負傷事故 ■物損事故 ■ヒヤリハット



今回の調査では、労働災害26件数が昨年と同じ件数となりましたが、負傷事故件数は昨年より減少しました。しかし、物損事故とヒヤリハット件数の増加により全体件数は微増となりました。今回の調査でも死亡事故は発生しませんでした。

3. 負傷事故（労働災害）発生推移



※今年度は昨年度と比べると負傷事故は減少しました。

ただし福島県（6件→2件）に減少しましたが、宮城県（1件→5件）に増加となりました。

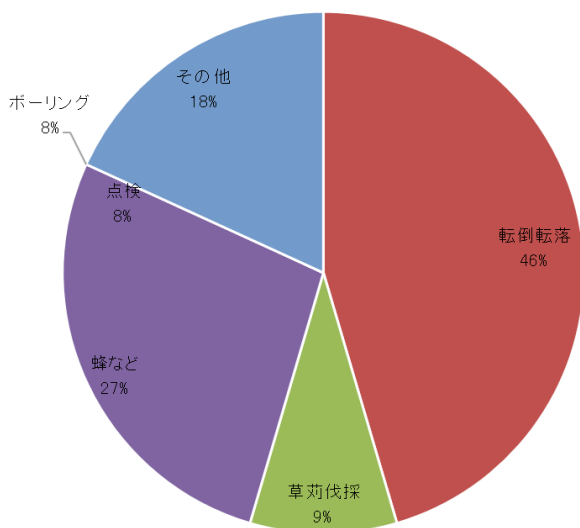
4. 負傷事故構成年度別

	交通事故	転倒 転落	草刈 伐採	蜂など	機材	ハンマー 杭	ボーリング	遭難 事故	落雷 感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成23年度	1	5	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4	15
平成24年度	2	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
平成25年度	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
平成26年度	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
平成27年度	2	1	1	10	0	2	0	0	0	0	0	0	4	20
平成28年度	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	7
平成29年度	0	3	2	4	0	0	1	0	0	0	0	1	2	13
平成30年度	0	5	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11

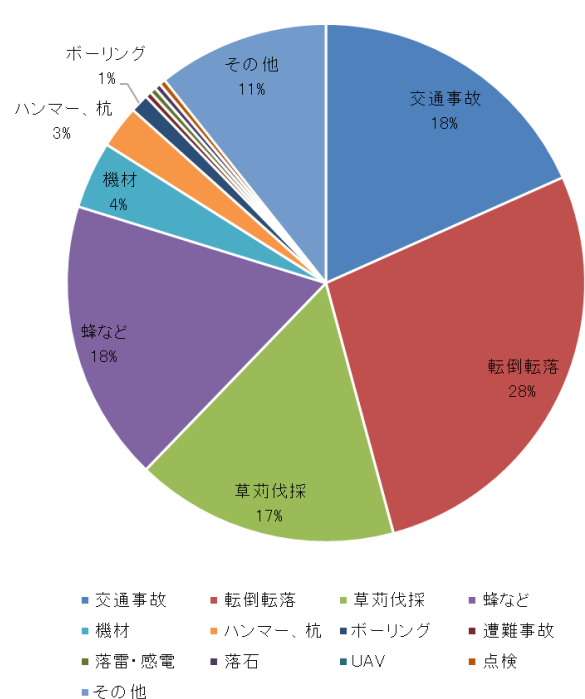
今調査では、昨年3件だった転倒転落による負傷事故が5件となりました。これは、ここ数年増加傾向にあるため注視する必要があると思われます。また、「その他」では機材の運搬や工具の取り扱いによる事故でしたが、再発防止対策で記載がありました「安全靴」など保護具の装着によって未然に防ぐことができる事故として注視、重要だと感じます。

全体的には前回調査と比べて2件減少していますが、引き続き会員皆様の労働災害防止の啓発をお願いいたします。

負傷事故の構成割合
(今回)



負傷事故の構成割合
(前回まで)

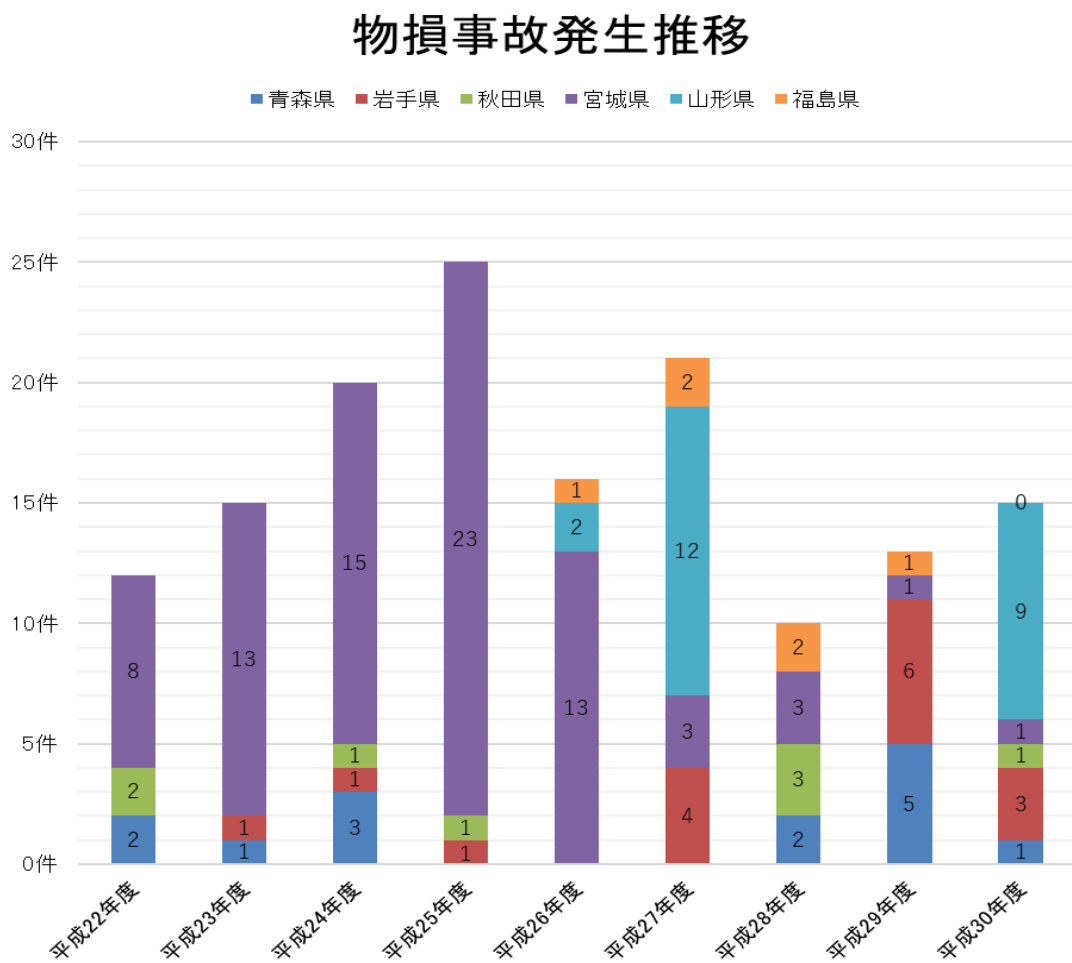


※前回は昭和50年～平成30年3月まで、今回は平成30年4月～平成31年3月まで

5. 負傷事故（労働災害申請）おもな事例

所在	発生日	災害内容	発生概要及び原因
青森県	2018年8月2日	熊・蜂・蛇などによる事故	斜面に手をついて登っている途中、草むらに隠れた蜂の巣に手をかけてしまい、蜂に上唇を刺された。
岩手県	2018年10月25日	その他	ミニラムサウンディング試験を行うために試験機材（重量物）を手運搬していた。2人で手運搬していたが、1人が空いている片手にベース盤（重量物）を持っていた。目標となる場所（地面）へベース盤を降ろしたところ相手の左足つま先へ落とし、怪我をした。
秋田県	2018年7月4日	転倒・転落事故	基準点周辺の除草作業のため、農道より高く傾斜のある法面から道路に降りる際、足元が滑り道路に着地した時に右足を骨折した。
宮城県	2018年9月21日	熊・蜂・蛇などによる事故	山林で立木調査中、突然蜂に囲まれ、逃げる際に親指を刺された。
宮城県	2018年7月19日	立木伐採・草刈等による事故	ナタを縦方向に振り下ろして竹を切ろうとしたところ、竹が切れずにナタが竹を滑るように右足脛に刺さり4針縫うケガを負った。
宮城県	2018年10月31日	転倒・転落事故	法面で足を滑らせ用水路に後頭部から転倒し、脳震盪を起こした。
宮城県	2018年6月25日	転倒・転落事故	河川内作業後の水際移動中に左足を滑らせて転倒し、左手小指を脱臼した。
山形県	2018年9月14日	熊・蜂・蛇などによる事故	現場作業中、蜂の巣付近(土の中)を通った様で蜂(クロス マチ)に手・首等7箇所刺された。
福島県	2018年9月14日	転倒・転落事故	測定の現場で幅1.0m、深さ1.0mの側溝脇に草が生茂っていて側溝に気づかず足を滑らせて転落し、脇腹を強く打った。

6. 物損事故発生推移



※山形県（0件→9件）増加があったこともあり、昨年度より発生件数が2件増加しています。

7. 物損事故構成年度別

	交通事故	転倒 転落	草刈 伐採	蜂など	機材	ハンマー 杭	ボーリング	遭難 事故	落雷 感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成23年度	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
平成24年度	19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	20
平成25年度	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	25
平成26年度	15	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16
平成27年度	12	1	0	0	3	0	1	0	0	0	2	0	2	21
平成28年度	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10
平成29年度	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	13
平成30年度	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	15

物損事故の大半は、例年と変わらず交通事故となっており、安全確認不足による事故や、出勤時の追突事故が報告されています。また、UAVによる物損事故は業務対応により今後も増加傾向にあると推測されます。

交通事故の削減をするためには、各会員の安全運転に対する取り組み実践が必要と考え、UAV事故対策については新たな防止対策（外部講習への積極的な参加／社内研修の実施）が必要と考えます。

8. 物損事故事例

所在	発生日	災害内容	発生概要及び原因
青森県	2018年6月8日	立木伐採・草刈等による事故	伐採中に農業用水用の塩ビ管を破損し漏水した。
岩手県	2018年6月18日	交通事故	出勤時、信号停車中の前方車両に追突した。
岩手県	2018年12月14日	交通事故	路面凍結に気づかず通常速度で走行し、徐行中の前方車両に追突した。
宮城県	2018年6月15日	その他	調査地点へ車で移動中、民地内でバックによる車両の方向転換を行った際に民地樹木に接触し樹木が折れ車両のガラス破損。
山形県	2018年5月18日	その他	現場作業中、山道走行中にサスペンションが破断した。
山形県	2018年6月4日	UAV	砂防点検で使用する準備のためケースを開けたら送信機が破損していた。
山形県	2018年12月28日	交通事故	移動中に後方車両に追突された。追突後、邪魔にならないよう路肩に車両を寄せた時にフロントバンパーを破損させた。
山形県	2019年3月5日	交通事故	出勤時に渋滞で停車している大型トラックに追突した。よそ見運転でブレーキを踏むのが遅れたのが原因。

9. ヒヤリハット報告件数

	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計(件)
平成23年度	1	0	0	0	0	0	1
平成24年度	1	2	3	2	0	2	10
平成25年度	0	0	2	3	0	3	8
平成26年度	1	1	3	6	5	5	21
平成27年度	0	2	5	6	2	7	22
平成28年度	5	13	8	7	5	6	44
平成29年度	3	11	6	4	1	4	29
平成30年度	2	6	4	8	3	3	26
県別合計	13	35	31	36	16	30	161

ヒヤリハットとは重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一手手前の事例の発見をいいます。文字通り「突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの」です。

今年の調査では26件の報告がありました。昨年の29件から減少し、ここ3年間連続での減少となりました。近年、会員の皆様の啓蒙活動（ヒヤリハット・KY活動など）による高い意識をもった各自の行動により、件数が減少してきているのではないかと考えています。

内容は昨年同様、転倒転落につながる事例が8件で最多となっており、草刈伐採、UAV、点検が昨年より増加しています。減少では転倒転落が大幅に減少となりました。要因として「大丈夫だろう」から「危険かもしれない」に意識が変わり、危険予知行動が身についてきている事にあると思います。

河川や水路での現場作業におけるヒヤリハットでは「現地状況の確認不足」が報告されましたが、全て大事には至りませんでした。再発防止策について記載がありましたが、現地状況を把握し、より安全性の高い作業方法に変更するなど異常気象による河川等の急激な増水なども考慮した作業計画を立てることが必要であると思われます。

些細なヒヤリハットを見逃さずにしっかりと防止する事で、重大な事故を未然に防ぐ事が出来ます。いずれも、日頃のKY活動で防ぐ事が出来る内容である為、会員皆様の職場での周知徹底をお願いいたします。

10. ヒヤリハット構成

	交通事故	転倒 転落	草刈 伐採	蜂など	機材	ハンマー 杭	ボーリング	遭難 事故	落雷 感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成30年度	2	8	3	2	0	0	0	0	0	0	3	2	6	26

1 1. ヒヤリハット報告事例

報告されたヒヤリハットの中から10例報告します。

所在	発生日	発生概要
岩手県	2018年7月27日	<u>重い荷物を持って掘削肩に接近。体重をかけすぎて肩が崩れ、転倒。</u>
		●発生時の状況 ケガはないものの、約1メートルの高さから落ちた。
		●反省点 暑さとクレーン等に気を取られ注意散漫になっていた。
		●再発防止策 ・こまめに休憩を取り集中力維持に努める。 ・移動する際には複数で行動し声を掛け合う。 ・荷物は分担して運ぶ。
岩手県	2018年11月28日	<u>車が治山堰堤へ向かう砂利道のぬかるみ部にはまり、抜け出せなくなった。</u>
		●発生時の状況 自力で抜け出すことが不可能であったため、近隣の自動車整備工場に依頼し牽引してもらった。
		●反省点 ぬかるみ部を予期せず、運転中の不注意であった。
		●再発防止策 ・山道を走行する際には周囲の状況を十分注意した上で徐行運転をする。
秋田県	2018年11月20日	<u>河川で作業船にて深淺測量中に、急な流れにより作業船が操作不能となる。</u>
		●発生時の状況 ①浅瀬に入ってしまうと船外機が川底を突き、上げざる終えなくなった。 ②流れが急になり作業船が制御不能となる。 ③錨を下ろしたまま落差工へ侵入。 ④転覆はしなかったが危ないところであった。
		●反省点 ①浅瀬（急流）に対する危機管理が不足していたこと。 ②落差工の有無を把握していなかったこと。
		●再発防止策 現地の状況をしっかりと把握し、作業船は努めて下流から上流に向かい走らせること。（上流からは速度が速くなり、突然の回避に後れを生じるため。）

所在	発生日	発生概要
秋田県	2018年10月1日	<u>斜面で転倒して足をくじいた。</u>
		●発生時の状況 山地で斜面を下ったところ、枯葉の下に隠れてコンパネがあり、滑って転倒した。
		●反省点 離れた箇所に山道があったので、そこを下るべきであった。
		●再発防止策 作業班長は山地では状況をよく確認して移動するよう、作業前に全従事者に周知する。
宮城県	2018年9月2日	<u>急流の河川で流量観測を行っていたときに、流速が早く足をすくわれそうになった。</u>
		●発生時の状況 水深は膝下50cm程度で、玉石がごろついていた。
		●反省点 水深が膝下程度であったため、大丈夫だろうという過信があった。
		●再発防止策 現場状況を把握し、転倒するかもしれないというリスクを考えて作業を行う。
宮城県	2018年7月4日	<u>コンビニ駐車場に前方から駐車し、後方から発車しようとしたところ、小学生が横切りヒヤリとした。</u>
		●発生時の状況 雨のため視界が悪い状況であった。
		●反省点 入れやすいからといって、前方から駐車したこと。
		●再発防止策 駐車場内であるからといって軽視せずルールを守る。
宮城県	2018年12月20日	<u>現地調査時に法面を歩行中足を滑らせ転倒。</u>
		●発生時の状況 発生直後、症状を確認したが大事には至らなかった。
		●反省点 積雪により足場が不安定な状況であったにもかかわらず、足を滑らせ転倒するかもしれないという認識が甘かった。
		●再発防止策 特に足場が悪い箇所を歩行する際は、現場状況を確認する。また、同行者が危険と思われた際には、声掛けをする。

所在	発生日	発生概要
山形県	2018年8月31日	<u>水路及び横ボーリンク工の点検中に前進したところ、水路に片足をとられ転倒した。</u>
		●発生時の状況 点検位置が草で覆われていたため足元がよく見えなかった
		●反省点 足元の確認を怠った
		●再発防止策 足元をよく見て確認し作業を行う。
福島県	2019年3月6日	<u>横断暗渠上流端集水柵の底部堆砂物に足を取られ転倒した。</u>
		●発生時の状況 両手を着くことが出来たため、大事には至らなかった。
		●反省点 作業終了間際のため気が緩んでいた。 長靴を過信せずに、十分な注意を払うべきだった。
		●再発防止策 危険箇所などを作業前に確認する。また、作業中に注意喚起を行う。
福島県	2018年7月23日	<u>片側交互通行規制を行っている際に両側から車両を流してしまい規制区間内で車両が向かい合って停止してしまった。</u>
		●発生時の状況 起点側の車両を一時規制内に誘導し、終点側の車両を流し終えたあと起点側の車両を流した。
		●反省点 起点側と終点側の誘導員の意思疎通が取れていなかった。
		●再発防止策 誘導時の安全確認を徹底させ、誘導員の人数を増やす。